

TIC NEWS

vol. **91**
2009.4

(財)とやま国際センター
〒930-0856 富山市牛島新町5-5
インテックビル4F (タワー111)
TEL (076) 444-2500
FAX (076) 444-2600
E-mail : tic@tic-toyama.or.jp
URL : <http://www.tic-toyama.or.jp>



「外国人のための日本語教室」の様子

外国人のための日本語教室

厳しい雇用情勢の中、職を失った外国人労働者の再就職などの支援を目的として、「外国人のための日本語教室」を開催しました。この教室では、面接に必要な日本語、職場や日頃の生活で使う日本語、ひらがな・カタカナ・漢字の読み書きなどを学習しました。

「外国人のための日本語教室」

会場：高岡市立東部公民館

日時：平成21年2月5日(木)～2月26日(木)

月曜日、火曜日、木曜日 全10回 15:00～17:00

雇用情勢が厳しさを増す中、ブラジルの方を中心に多くの在住外国人が職を失っています。財団法人とやま国際センターへも数多くの相談が寄せられ、その中に「今まで、仕事が忙しくて日本語を勉強する時間がなかった。今、仕事がないので、この時間を利用して、再就職のための日本語を毎日でも勉強したい。」との相談がありました。

ボランティアが主体となっている地域の日本語教室は、週1回、あるいは、月3回ペースでの開催です。「毎日でも勉強したい」「就職に役立つ日本語」という希望に応えるために、当財団では、緊急に日本語教室を開催することにしました。

県内で最も多くのブラジル人が住む高岡市で開催したところ、55人（平均参加者数33.6人）の方々に参加しました。参加者の多くは高岡市居住のブラジルの方でしたが、パキスタン、ボリビア、ニカラグア、中国の方や黒部市から毎回参加した方もいました。

企画から開催までの短い時間の中で、民間の日本語教育機関「トヤマ・ヤポニカ」の講師陣に①面接に必要な日本語②職場で使う日本語、③日頃の生活で使う日本語、そして、④ひらがな・カタカナ・漢字の読み書きなどを盛り込んだ教材作りを行っていただきました。

この「外国人のための日本語教室」では、専門家の力と「相互学習型地域日本語支援」を実践している日本語ボランティアの力を結集して、限られた時間の中で、学習者のために役立つ効果的な授業を行うことが出来ました。また、在住期間が長いブラジルの方でも日本語学習経験がない人たちが多くいることを想定して、教室での通訳などを担当したブラジル人アシスタントも大きな力になりました。

アシスタントをお願いしたSさんは、3年前に当センターが立ち上げに関わり現在はボランティアの方々で運営している「ワイワイにほんご・太閤山」の教室で、開催当初から日本語を勉強しています。今回、支援される側から支援する側になり、日を追うごとに自信にあふれた笑顔になっていったのが印象的でした。



履歴書記入に真剣に取り組んでいる様子



地域の日本語教室の情報を提供しました



基礎的な日本語の構造を学んでいます

参加者の日本語能力も一様ではないという難しい学習環境でしたが、専門家、外国人アシスタント、日本語ボランティア、そして、学習者の熱意のなかで無事終了することができました。

今回受講されたの方々には、この「日本語教室」での学習をきっかけとして、今後も日本語の学習を続けてほしいと願っています。

第14回 富山県国際交流団体ネットワーク会議

会場：環日本海交流会館

日時：平成21年3月9日(月) 13:30～16:00

富山県内の国際交流団体が一堂に会し、研修、情報交換を行うための「国際交流団体ネットワーク会議」を開催し、25団体40名の方の参加がありました。今回は講師に国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット研究員カゼム・ヴァファダリ氏（イラン）を招き、「北陸の里山から地球環境を考える」というテーマでの講演会を開催しました。

ヴァファダリ氏は、「日本の里山、里海は人口の減少と共に、荒れてきています。環境をテーマにして観光＝エコ・ツーリズムを進めることにより、環境保全が可能だと考えています」と訴えました。

講演終了後、各団体の事業紹介や国際交流事業への提案などで情報交換を行いました。



講師カゼム・ヴァファダリ氏

射水多文化理解教室

日時：平成21年3月10日(火) 14:00~15:30
会場：射水市放生津公民館



年々外国人が増加している射水市。平成20年12月末で1,951人が外国人登録しており、市総人口に占める割合が富山県内で初めて2%を超えました。国籍別にはブラジル、中国、パキスタン、フィリピン、ロシアが多く、中でも県内のパキスタン国籍者のうち、約60%が射水市に登録しています。

このような状況の中、パキスタンの文化や習慣を理解する「射水多文化理解教室」を開催しました。講師は、高岡市に居住し、射水市内で働いているサジ・アルヴィさんファミリー（奥さんのひとみさんと長男シェーラザード龍太くん）にお願いしました。

アルヴィさんは、「日本は安全で住みやすいところだが、一方で家族の結びつきが希薄」とコミュニケーションの重要性を指摘していました。ひとみさんは「同時多発テロ以降、イスラム教に対する偏見があるのでは？パキスタンの人は、本当は優しい」と語ってくれました。

国際交流員より離任のご挨拶！

しょう しょう 鐘 嬢さん (中国)



変な話かもしれませんが、一年が過ぎてしまったなあという実感は、この前テレビで、去年4月富山に来たばかりのころに東京であった事件がとうとう判決を言い渡されたというニュースを見た瞬間に湧いてきました。裁判というものには時間がかかるものですから、それがもう終わりということは時間の過ぎた証拠ではないですか。

帰国日を決めてほしいと担当の先生から言われてから、富山に来た最初の日のことが何度も目の前に浮かびました。富山空港を出ると、私の担当者と前任者が笑顔で迎えてくれました。県庁に行く車の窓から、きれいでコンパクトな町並みをのぞきました。そのとき、上海で預けた荷物が手続き上の問題で税関にとめられ、いつ届くかはわからない状態で、着任挨拶に行くとき着る予定のスーツも入っているという話を持ち出したら、会ったばかりの女性の担当は「わたしのスーツでよければ」と迷わずに言ってくれたことに感動しました。

そして、県庁国際日本海政策課のみなさんに会ってから、お昼は県民会館一階のキャッスルで係のみなさんと一緒に食べました。みんなの前で笑って話していましたが、実を言うと緊張していて自分が何を言っているのかさっぱりわからなかったです。お昼が終わったら、松川沿いを歩いて県庁に戻りました。ちょうど桜吹雪の時期だったので、息が止まるほど桜の美しさにうっとりしていました。そして富山での生活は幕が開きました。

正直にいうと、最初はこの仕事は自分にできるのかという不安もありました。なぜかという、留学経験もない、二年間大学院で日本語文法の研究をした後、大学で日本語の教師をしていたわたしは、普段使っていた日本語はほとんど文法用語が教室用語で、実用的ではなかったからです。その不安を抱えながら、仕事が始まりました。

国際交流員の仕事は県内のいろいろなところから依頼されてくる翻訳、とやま国際センターの月刊誌の翻訳と編集、中国から富山を訪れる代表団の受け入れ、観光課マスコミ招待事業の随行通訳、とやま国際センターで開催する中国語中級講座、中国人からの生活相談の対応、学校などの出前講座、国際交流イベントの企画などの内容がありました。友人がほかの都道府県に配属されて国際交流員として働いていますが、毎日県庁に座ったまま、翻訳するだけで、外へは行くチャンスなどめったにないそうです。だから、富山県の国

際交流員の仕事内容の豊富さにその友人は驚いていました。

振り返ってみると、最初は何もわからなくて、自分でもいやになるほど担当に質問してばかりいました。国際課と観光課の担当は一向に面倒臭がらず、何でも調べて教えてくれました。富山のことや翻訳に出た質問はもちろんのこと、中国語中級講座にどんなテキストを使ったらいいか迷ったときも、自分が中国語研修のとき使っていたテキストを職場に持ってきて勤めてくれました。はじめて代表団を受け入れるときも、会場まで連れて行って来て、がんばってねと励ましてくれました。こんないい担当に恵まれたからこそ、だんだん仕事に慣れてきて、自分なりに満足する仕事ができ、楽しむようになりました。

もっとも印象に残っているのは去年の夏に行われたとやまこども舞台芸術祭と今年のJET世界まつりです。こども舞台芸術祭のとき、瀋陽民族芸術学校から10人ぐらいの子供たちが来ていました。一週間朝から晩までずっと子供たちと一緒にいて、リハーサル、出演、交流会、買い物などに付き添い、通訳するというよりは面倒を見る役割でしたが子供たちのお姉さんになったつもりで見守っていました。県内の国際交流員一同で企画して開催するJET世界まつりでは、最高のチームワークで仕事ができ、楽しくて、とても忘れられません。

観光課の仕事も楽しかったです。第一、富山の自然を満喫できます。第二、富山の魅力を国の人に伝えることができます。春、夏、秋、冬、雄大な立山、神秘的黒部峡谷、幻の五箇山、富山の風景が心に刻まれています。

心にしみる思い出はまだあります。出前仕事で忙しい時期に私とトウさんの分まで手伝ってくれた担当、家族が富山に来ていたとき車を出してあちこち案内してくれた日本人の友達、歯が痛いときにはイチゴチョコをくれたりする女性の同僚、旅行に行くと言えばツアーとホテルの予約サイトを教えてくれたり、パンフレットを貸してくれたりする観光課の担当、誕生日の日にお昼も夜もサプライズパーティーを企画してくれた係のみんなと手作りケーキを焼いてくれた韓国国際交流員など、数知れない人々から受けた優しさと楽しい思い出で胸がいっぱいです。

中日友好などと大きなことは言えませんが、上海に帰ったら、ただひとつひとつ実際あったことこの目で見た日本と日本人の姿をそのまま家族や友達、学校の教え子たちに素直に伝えようと思っています。愛しい富山を離れるのはさびしいですが、再会する日が近い将来にまた訪れると確信しています。

国際センター

平成21年度も、(財)とやま国際センターではさまざまな講座を開催します。日本語・日本語ボランティア養成講座は拠点を南砺市に移して開催。ロシア語講座は今まであった初級クラスを中級クラスとし、新たに入門クラスができました。

富山にいながらにして、各国の文化を知るまたとない機会です。どうせ学ばなら“楽しく”学びましょう！ 国際センターからの“楽問のススメ”です。

日本海学事業講座

日本海学とは？

環日本海地域と日本海をひとつの循環・共生体系としてとらえ、長い歴史の中で繰り返されてきた循環と共生のシステムに学び、人間と自然のかかわり、地域間の人間と人間とのかかわりを総合学として研究するものです。

日本海学研究グループ支援事業成果発表会

5月9日(土) 9:30~16:30 県民会館612、613号室

定員：40名 参加費：無料

日本海学に関する研究・普及活動に対し、2008年度に助成を受けた11グループによる合同成果発表会です。

【日本海学講座】

第1回 「古事記・風土記に見る日本海文化」

5月23日(土) 13:30~15:00 県民会館304号室

定員：100名 参加費：無料

要旨：考古学や歴史学などの成果を踏まえながら、『古事記』や『出雲国風土記』にみられる神話や伝承を通して、筑紫～出雲～高志～科野（諏訪）の交流について考察します。

第2回 「キトキト新湊の魚と内川遊覧」

10月8日(木) 9:00~16:00 射水市新湊地区

定員：20名 参加費：実費（食事代、遊覧船乗船代など）

キーワード：新湊の歴史探訪、内川散策、内川遊覧船、万葉線、県営渡船、新湊の魚（料理、昼せり）、陸上養殖業

その他3回の日本海学講座、日本海学シンポジウム、大学連携事業なども開催予定です！

【お申し込み・お問い合わせ】

〒930-8501（住所記載は不要です）

日本海学推進機構
（富山県 国際・日本海政策課
日本海学班内）

TEL (076)444-3339(直通)

FAX (076)444-8694

E-mail adm@nihonkaigaku.org

URL <http://www.nihonkaigaku.org/>



日本語・日本語ボランティア

生活支援日本語ボランティア養成講座

外国人の日本語支援を行うボランティア

【南砺会場】

前期6回 5月16日(土)~6月20日(土)

後期6回 10月~3月 各月1回

開催場所：南砺市福光福祉会館 研修室

定員：15名 参加費：3,000円

【富山会場】

開催時期：7月~10月（全10回）

環日本海交流会館 大会議室

定員：20名

参加費：3,000円

外国人のための日本語教室 in 南砺

開催時期：7月~3月

毎週日曜日 10:00~11:30

開催場所：南砺市福光福祉会館 研修室

参加費：1回300円

外国語・外国文化を学ぶ講座

平成21年度の各国語講座

講座名	開催期間
中国語（入門）	5/25 ~ 3/2
中国語（初級）	5/29 ~ 3/6
中国語（中級）	5/27 ~ 3/4
韓国語（入門）	5/26 ~ 3/3
韓国語（初級）	5/28 ~ 3/5
韓国語（中級）	5/27 ~ 3/4
ロシア語（入門）	5/25 ~ 3/2
ロシア語（中級）	5/29 ~ 3/6
ポルトガル語（中級）	5/25 ~ 3/2

日 時：上記の期間の18:30~20:00

場 所：(財)とやま国際センター研修室

受講料：10,000円

申込方法：住所、氏名、年齢、電話番号
でお申し込みください。（定員になり次第）

【お申込み・お問い合わせ】

〒930-0856 富山市牛島新町5-5

インテッ

(財)とやま国際センター

TEL 076-444-2500 FAX 076-444-2600

E-mail gogaku@tic-toyama.or.jp

URL <http://www.tic-toyama.or.jp>

楽 問 の ス ス メ

ボランティア養成講座、多文化共生講座

ボランティア養成講座を開催します。

毎週土曜日 10:15~12:15



日本語ボランティアのスキルアップ講座

日本語ボランティアが主体的に活動するために必要となる、地域在住外国人への日本語支援の手法、教室運営のノウハウやカリキュラムの組立等の習得のための講座を開催します。

災害時の日本語ボランティア育成

災害（震災を想定）時に支援活動拠点や避難所等において、在住外国人に対して、「やさしい日本語」による情報提供を行うことができるボランティアを育成します。

多文化共生サポーター養成講座

射水市において進めている外国籍子どもサポートプロジェクトの一環として、外国籍児童生徒の課外活動を支援する多文化共生サポーターの育成のための研修会を実施します。

多文化理解教室

富山県内に居住する外国人住民を講師として、出身国の言語や文化などを紹介する講習会を開催します。

講座

	曜日	対象	定員
7/15	月	初心者	40名
7/19	金	1年程度学習された方	40名
7/17	水	2年程度学習された方	15名
7/16	火	初心者	40名
7/18	木	ハングルが読める方	40名
7/17	水	2年程度学習された方	40名
7/15	月	初心者	15名
7/19	金	2年程度学習された方	15名
7/15	月	基礎を学習された方	15名

イングリッシュ・チャット

*予約、参加費は不要。

毎月第1, 3水曜日 19:00~20:30 (財)とやま国際センター ラウンジ

県内で暮らす外国人の方を迎え、英語でおしゃべりを楽しみましょう!

国際交流員による多文化交流会“お茶っとルーム”

*予約、参加費は不要。

毎月第4火曜日 18:30~20:00 環日本海交流会館

各国のお茶などを飲みながら気軽にコーディネーターの国際交流員と交流します。

イングリッシュ・アドベンチャー

*要申込、参加費は不要。

5月18日~7月6日 毎週月曜日 17:00~18:30

(財)とやま国際センター 研修室 定員:15名

高校生対象の英語講座。ゲーム等を通して楽しく英語や英語圏の文化を学ぶ講座です。



英語教育セミナー

子供をもつ親などを対象に、小学生の子供への英語指導方法について学習します。

夏休み子ども英語塾

小学校高学年を対象に遊びを交えながら楽しく英語に親しみます。

夏休み 計4回程度



*詳しくはホームページ等に掲載予定です。



ビル4階

600

平成21年度JICAボランティア春募集体験談&説明会

平成21年度JICAボランティア春募集（募集期間は4月1日～5月18日）の開始に伴い、下記の日程で募集説明会を行います！予約不要、入場無料です。お気軽にご来場ください。

【青年海外協力隊】満20歳～満39歳

日 時	開催場所
4月11日(土) 14:00～	サンシップとやま
4月26日(日) 14:00～	サンシップとやま
5月7日(木) 18:30～	富山駅前CiCビル 3階

【シニア海外ボランティア】満40歳～満69歳

日 時	開催場所
4月11日(土) 10:30～	サンシップとやま
4月26日(日) 10:30～	サンシップとやま

～キャラバン隊がやってくる!!～

全国の協力隊OBで構成する(社)青年海外協力協会では青年海外協力隊の全国応募促進支援キャンペーンを行っています。

独立行政法人国際協力機構（JICA）が行う青年海外協力隊事業を国民の皆様に理解していただき、たくさんの方に参加していただくためにキャラバン隊が全国各地にキャラバンカーと共にやってきます。

富山県にキャラバン隊がやってくるのは5月の中旬で、県庁前を出発して富山県内の各自治体やイベント会場をまわります。皆様のまわりで、協力隊のことをもっと知りたい、直にOB・OGと話をしてみたいという団体、イベントがございましたら、情報をお寄せください。連絡先は、下記の通りです。もし、近くまでキャラバンカーがまいりましたら、ぜひ一声かけてください。

- ▶お問合せ・連絡先：青年海外協力隊富山県OB会 info@jocv-toyama.jp 会長 大角（おおかど）
または(財)とやま国際センター（デスク）TEL 076-444-2500 JICA国際協力推進員 宮本 まで



今回はベナン共和国から届いた青年海外協力隊 高原 真理さんからの便りをご紹介します。



高原 真理さん

派遣国：ベナン共和国

職種：村落開発普及員

派遣期間：平成19年9月～平成21年9月

配属先：アラダ福祉センター

現在私は西アフリカに位置するベナンで村落開発普及員として働いています。ベナンは本当に気さくで明るくとても人懐っこい国民がとても魅力的な国です。

ベナン人のコミュニティは小さく、隣近所の付き合いを大事にしています。挨拶が大変重んじられており、私の赴任当初、私の家にわざわざやってきて、「こんにちは、元気？ それじゃまた！」と挨拶だけをして帰っていく姿に驚きました。と言うのは、この国はブドゥ教の発祥の地として知られており、ベナン人曰く、嫌われたり、人から羨まれる事をすると呪いをかけられ殺されるそうです。その結果、挨拶、近所付き合いを重んじる国になっているようです。

この国で私は妊産婦と中高生を対象にしたHIV/AIDSの啓発活動、環境汚染を少しでも抑止しようと始めた女性グループとのリサイクル小物作り、小学校でのピアノ教室を行っています。女性グループでは、使用済みナイロン袋を使って財布とブレスレットを作っています。デザインは彼女たちに任せていますが、日本人の私のセンスでは生み出せない作品が出来てきます。シンプルなものやモノトーンはあまり見かけず、洋服も伝統衣装も派手で、複数の色が交じり合っているものを好み、そしてそれがとても似合っています。その影響で財布、ブレスレットもとても斬新な仕上がりになっています。

文化、習慣、環境、言語、何もかも異なる状況の中で行う活動はやはり容易ではありません。お金や物ではなく、知識やアイデア、教育を提供するボランティアの意味はなかなかベナン人に理解されません。しかし、将来ベナンが援助に頼らず、ベナン人の力で発展するためにはまず、教育が必要です。私達は今すぐには理解されなくても諦めずに将来のベナンの発展のために頑張っています。

ティップティータ・スィーセンさん (カナダ・オンタリオ州運輸省 勤務)

Q. 今、どんなお仕事をされていますか？

A. 私は今、オンタリオ州運輸省で働いています。オフィスはトロントにあります。仕事は、オンタリオを出て海外などで一時的に運転したりする人のために国際免許を発給する仕事です。

Q. カナダの近況について教えてください。

A. カナダでは、やはり世界的不況の影響を受け、経済活動が停滞しています。北米では一大産業である自動車産業が行き詰まっていることが最も大きな問題の1つです。

Q. 富山とはどんな結びつきがありますか？

A. 私は魚津駅の近くに2年間住んでいました。私はJETプログラム(外国青年招致事業)で来日し、2003年から2005年まで朝日町の泊高校で語学指導助手をしていました。



トロントの顔 CNタワー

Q. 最後に富山の人に一言メッセージをお願いします。

A. 今のところ、富山でしたスノーボードが懐かしくてたまりません。私にはたくさんの富山、富山の人々の良い思い出があります。特に泊高校の生徒に会いたいですね。みんな元気になってくれているといいなと思います。また、あるお気に入りのレストランの“ほうれん草カレー”がもう一度食べたくて仕方ありません。富山は私の第2の故郷みたいなもので、いつも富山のことを考えると自然に笑みがこぼれてきます。

—日本語教室 in 黒部—

会場：黒部市国際文化センター コラーレ

日時：平成20年7月6日(日)～平成21年3月15日(日)

毎日曜日 全25回 10:00～11:30



日本語教育の専門家と「生活支援日本語ボランティア養成講座地域編 in 黒部」を受講した日本語ボランティア15人が取り組んできた「日本語教室 in 黒部」、中国・ブラジル・フィリピンなど10カ国から34名の外国籍住民が参加しました。

黒部では入門クラスと初級クラスを開設し、日本語ボランティアの方々には、日本人住民と外国籍住民の「双方向の学びの場」としての日本語初級クラスで活動していただきました。1時間を生活に密着したテーマでの日本語学習、30分を識字という活動でしたが、最終日の漢字の学習では、苦手意識を持っていた参加者も、「漢字の成り立ち」をゲーム活動の中から体感し、最後には笑顔があふれる教室活動となりました。

「日本にすることに不安な気持ちになって帰国を考えていたけれど、この教室に参加して安心して日本にいられると思った」というKさん。教える人＝日本人、教えられる人＝外国人という関係ではない「双方向の学びの場」としての地域日本語教室が一步一步着実に実を結んでいます。

「外国人の方が参加したいという気持ちになるクラス作りをしたいね」という日本語ボランティア。平成21年4月からは黒部市主催による「日本語教室 in 黒部」が開催されます。日本語ボランティアの方々による新たな地域日本語教室が始まります。



宝くじは
緑の下の
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
役立てられています。

ネパール出身
ラズバハク カマラ さん
お薦め料理！



ヨマリ

ヨマリはネパールのネパール族の珍味として知られており、チャク(糖蜜)を米の粉に包んで蒸す、饅頭のようなお菓子です。毎年12月の満月の日にお米の神様にお供えます。また、子供の誕生日に作ったりもします。

～作り方～

1. ゴマと糖蜜を混ぜて具の準備をしておく。
2. 米粉とお湯を混ぜて練り、生地を作る。
3. 生地を丸めながら右下図のような細長い形にし、指で回しながら、真ん中に穴をあける。
4. 穴の中に1の具をつめ、穴を閉じます。穴を閉じるとき、二つの耳を作る。
5. 約20分蒸せば、できあがり。



*生地を作るときにお湯の温度を高くすると、蒸しあがった時に、ひび割れしにくくなります。

～材料～

米粉
お湯 各適量
糖蜜
ゴマ

*好みでドライフルーツ、チョコレートなどの甘い物を入れてもいいでしょう。

TICからのお知らせ

4月から生活相談および電話通訳サポートの時間帯が変わります！

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
ポルトガル語	12:30～17:00	12:30～16:30	9:00～17:00	12:30～16:30	12:30～17:00
中国語	13:00～17:00				
英語		—	13:00～17:00	—	—
ロシア語	—				
韓国語	—	—	—	—	—

⇒生活相談：外国人が生活する上で必要な情報提供や個人的な悩み、諸問題の相談を**母国語で行います。**

⇒電話通訳サポート：日本語がわからなくて相談ができない外国人の代わりに各機関へ電話をし、**通訳をします。**

電話では通訳・専門機関・外国人の3人で話すことができます。使用したいときは専用電話番号**076-441-5654**へ電話してください。(通訳が必要な外国人からの電話のみ受付します。電話代は自己負担)

草の根国際活動助成事業募集中

締め切り迫る！4月10日(金)まで

とやま国際センターでは、国際交流・協力活動および多文化共生活動を実施している民間の非営利団体・グループで県内に事務所、または活動拠点を有する団体等が主催する事業に対し助成します。要綱や過去の実績等についての詳細はホームページ「TICからの助成」をご覧ください。

国際交流人材バンク

TICでは、様々な国際交流活動等に協力していただける人材を募集し、紹介しています。「外国の方をホストファミリーとして受け入れたい」、「通訳をしてもらいたい」など…そんな方は国際交流人材バンクを活用してみてください。

利用や登録についての詳細はホームページをご確認ください。

<http://www.tic-toyama.or.jp/>

これからの行事予定

ブラジル一日総領事館

6月14日(日) 9:00～(予定)
高岡市ふれあい福祉センター

国旗、民族衣装貸し出します！

122カ国の国旗、民族衣装などをお貸ししています！
詳細はホームページをご覧ください…
<http://www.tic-toyama.or.jp/>



(財)とやま国際センター賛助会員募集中！

国際交流・協力事業にご支援いただけるようお願いいたします

年会費(1口) 個人会員 3,000円

団体会員 30,000円

*賛助会費に対しては、税法上の優遇措置があります。